

1. 首都圏空港の整備

(1) 東京国際空港(羽田)の整備

羽田空港の再拡張事業

羽田空港は、国内航空旅客の約60%が利用する国内航空輸送ネットワークの要であると同時に、既にその能力の限界に達している中、今後さらに国内・国際航空需要の増大が見込まれ、首都圏空港として成田空港との一体的な活用が求められています。

本事業は、新たに4本目の滑走路等を整備し、年間の発着能力を40.7万回に増強して、発着容量の制約の解消、多様な路線網の形成、多頻度化による利用者利便の向上を図るとともに、国内・国際双方の需要の伸びを勘案し、国際定期便の就航を図るものです。また、昨今の資材高騰にも適切に対応しつつ、平成22年10月末の供用開始を目指して事業を着実に推進します。

<事業の概要>

平成21年度予算では、新設滑走路・連絡誘導路の整備、航空保安施設の整備等関連事業を実施します。

21年度要求額 1,559(1,245)億円

※()内は前年度予算

<財源スキーム>

- 整備事業費の約2割程度について、地方公共団体が無利子貸付にて協力。
- 残りの事業費については、概ね、国費(一般会計から受入)：財投＝3：5で手当て。

<税制上の支援措置>

- 新設滑走路等に係る国有資産交付金の特例。

【羽田空港再拡張概略図】



[再拡張前(H17.10.1時点)]

30便/時間
29.6万回/年(※※)

約11万回/年増加
(約1.4倍)

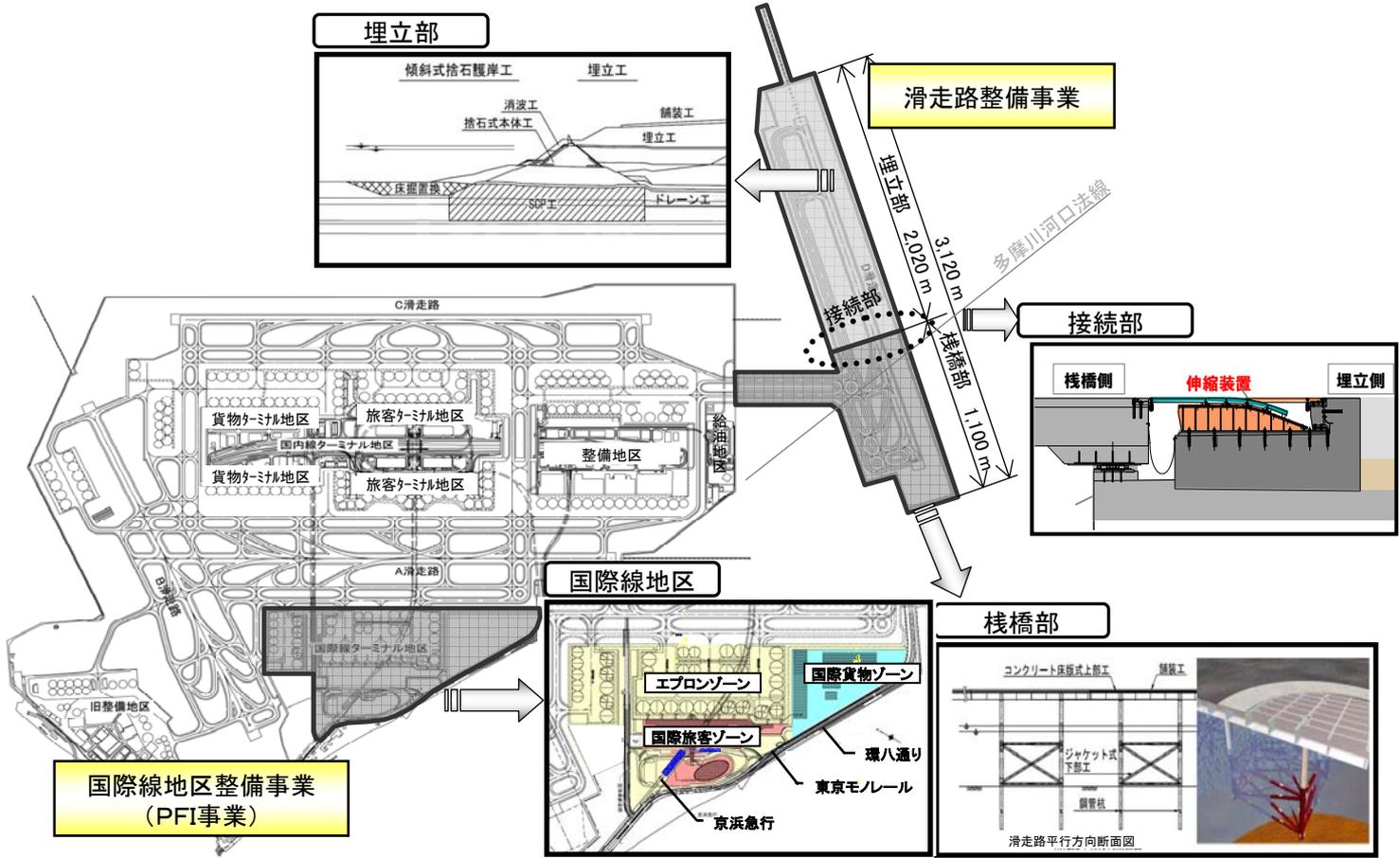
[再拡張後]

40便/時間
40.7万回/年

※発着回数の増加は、管制の安全確保等を図りつつ段階的に実施
 ※※H19.9.1以降の発着容量は、高速離脱誘導路の整備等に伴い、31便/時間、30.3万回/年に増枠

国内線については、更なるネットワークの充実を図るとともに、国際線については、昼間はソウル、上海、北京、台北、香港等へ、深夜早朝は更に欧米を含む世界の主要都市への就航を図ります。(※P10のコラム「成田と羽田の一体的活用」参照)

羽田空港再拡張事業の整備概要



羽田空港再拡張事業の施工状況

新滑走路全景航空写真 (平成20年7月現在)

【埋立部①】

山砂運搬経路

山砂の運搬船への積出し

【埋立部②】

SCP船

地盤改良工(完了)

護岸工

【棧橋部】

新管制塔整備

連絡誘導路部

棧橋部

埋立部

ジャケット諸元(棧橋部)

- 標準寸法 幅63m×長さ45m×高さ35m
- 最大重量 約1,600トン

杭打設

杭打設(施工後)

ジャケット据付

ジャケット製作状況(参考)

※ 写真/CG提供「羽田再拡張D滑走路建設工事共同企業体」

羽田空港の機能向上

羽田空港は、国内航空交通の中心として全国49空港との間に1日約420往復(平成20年7月ダイヤ)のネットワークが形成され、国内線で年間約6,100万人(平成19年度定期便実績)の人々が利用しています。

羽田空港の重要性に鑑み、今後とも、国内拠点空港としての役割を果たしつつ、今後の国内・国際航空需要に適切に対応していくために既存施設についても空港能力、利便性等の向上を図ることが不可欠であり、そのための整備を推進し、羽田空港の機能向上を目指します。

<事業の概要>

平成21年度予算では、誘導路・エプロンの新設、航空保安施設の整備、空港アクセスの改善等を実施します。

21年度要求額	1,277 (1,288)億円
事業費	272 (272)億円
借入金元利償還	1,005 (1,016)億円

※ () 内は前年度予算

